

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2019-154959 (P2019-154959A)

【公開日】令和 1 年 9 月 19 日 (2019.9.19)

【年通号数】公開・登録公報 2019-038

【出願番号】特願 2018-48715 (P2018-48715)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 7 日 (2021.5.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、

第 1 発光手段と、

第 2 発光手段と、

前記第 1 発光手段からの光を拡散する第 1 拡散手段と、

前記第 2 発光手段からの光を拡散する第 2 拡散手段と、

第 1 情報を表す第 1 発光表示部と、

前記第 1 情報よりも重要度が低い第 2 情報を表す第 2 発光表示部と、

前記第 1 発光手段からの光を前記第 1 拡散手段へ導光する第 1 導光手段と、

前記第 2 発光手段からの光を前記第 2 拡散手段へ導光する第 2 導光手段と、

を備え、

前記第 1 発光手段と前記第 2 発光手段とは、単位時間あたりに発光する期間の長さが異なり、

前記第 1 拡散手段は、規則的なパターンによって光を拡散可能であり、

前記第 2 拡散手段は、不規則なパターンによって光を拡散可能であり、

前記第 1 発光表示部は、前記第 1 拡散手段により拡散された光によって発光し、

前記第 2 発光表示部は、前記第 2 拡散手段により拡散された光によって発光し、

前記第 1 導光手段及び前記第 2 導光手段は、規則的なパターンによって光を導光可能である、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

上記課題を解決するために、手段 A の遊技機は、

遊技が可能な遊技機であって、

第 1 発光手段と、

第 2 発光手段と、

前記第 1 発光手段からの光を拡散する第 1 拡散手段と、

前記第 2 発光手段からの光を拡散する第 2 拡散手段と、

第 1 情報を表す第 1 発光表示部と、

前記第 1 情報よりも重要度が低い第 2 情報を表す第 2 発光表示部と、

前記第 1 発光手段からの光を前記第 1 拡散手段へ導光する第 1 導光手段と、

前記第 2 発光手段からの光を前記第 2 拡散手段へ導光する第 2 導光手段と、

を備え、

前記第 1 発光手段と前記第 2 発光手段とは、単位時間あたりに発光する期間の長さが異なり、

前記第 1 拡散手段は、規則的なパターンによって光を拡散可能であり、

前記第 2 拡散手段は、不規則なパターンによって光を拡散可能であり、

前記第 1 発光表示部は、前記第 1 拡散手段により拡散された光によって発光し、

前記第 2 発光表示部は、前記第 2 拡散手段により拡散された光によって発光し、

前記第 1 導光手段及び前記第 2 導光手段は、規則的なパターンによって光を導光可能である、

ことを特徴としている。

さらに、上記課題を解決するために、手段 1 の遊技機は、

遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

第 1 発光手段（例えば、アングル型 LED 8 1 1、トップ型 LED 8 1 2，8 1 3 など）と、

第 2 発光手段（例えば、アングル型 LED 7 4 5，7 4 6）と、

前記第 1 発光手段からの光を拡散する第 1 拡散手段（例えば、光拡散部 8 0 7 D を有する第 1 アウターレンズ 8 0 7、光拡散部 8 0 8 B を有する第 2 アウターレンズ 8 0 8，光拡散部 8 0 9 B を有する第 3 アウターレンズ 8 0 9 など）と、

前記第 2 発光手段からの光を拡散する第 2 拡散手段（例えば、光拡散部 7 4 4 D を有するアウターレンズ 7 4 4）と、

を備え、

前記第 1 発光手段と前記第 2 発光手段とは、単位時間あたりに発光する期間の長さが異なり（例えば、パチンコ遊技機 1 に電力が供給されている期間、あるいは、パチンコ遊技機 1 にて遊技が行われている期間（可変表示期間、大当たり期間）のうち所定の単位時間（例えば、3 時間など）あたりにおける第 1 発光表示部 8 5 1～第 3 発光表示部 8 5 3 の発光表示期間は、第 4 発光表示部 8 5 4 の発光表示期間よりも長くなっている。図 2 6 参照）と、

前記第 1 拡散手段は、規則的なパターンによって光を拡散可能であり、

前記第 2 拡散手段は、不規則なパターンによって光を拡散可能である（例えば、光拡散部 8 0 7 D は、ダイヤモンド形状の複数の凸部が規則的なパターン（例えば、左右方向に所定間隔おきに形成された複数の凸部からなる凹凸群が上下方向に複数列形成されるパターンなど）で配置されることにより形成されている。図 2 7（A）参照。一方、光拡散部 7 4 4 D は、大きさや形状が異なる複数の凸部が不規則なパターン（ランダムパターン）で配置されることにより形成されている。図 2 7（B）参照）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、好適に発光させることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

手段 2 の遊技機は、手段 1 に記載の遊技機であって、

前記第 1 発光手段（例えば、アングル型 L E D 8 1 1）は単色（例えば、白色）で発光する演出を実行可能であり、

前記第 2 発光手段（例えば、アングル型 L E D 7 4 5 , 7 4 6）は複数色（例えば、7 色）で発光する演出を実行可能である（図 2 6 参照）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、好適に発光させることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

手段 3 の遊技機は、手段 1 または 2 に記載の遊技機であって、

文字を象った発光表示部を備え、

前記発光表示部は、第 1 発光表示部（例えば、第 4 発光表示部 8 5 4）と該第 1 発光表示部よりも大きい第 2 発光表示部（例えば、第 1 発光表示部 8 5 1 ~ 第 3 発光表示部 8 5 3）を含み、

前記第 1 発光手段は、前記第 2 発光表示部を発光可能である

ことを特徴としている。

この特徴によれば、好適に発光させることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

手段 4 の遊技機は、手段 1 ~ 3 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記第 1 発光手段からの光を前記第 1 拡散手段へ導光する第 1 導光手段（例えば、第 1 インナーレンズ 8 0 3）と、

前記第 2 発光手段からの光を前記第 2 拡散手段へ導光する第 2 導光手段段（例えば、インナーレンズ 7 4 3）と、

を備え、

前記第 1 導光手段と前記第 2 導光手段とは、共に規則的なパターン（例えば、反射部 8 0 3 D、7 4 3 D）によって光を拡散可能である

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を向上させることができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

手段 5 の遊技機は、手段 1 ~ 4 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記第 1 発光手段（例えば、アングル型 L E D 8 1 1）は移動可能であり、

前記第 2 発光手段（例えば、アングル型 L E D 7 4 5 , 7 4 6）は移動不能である

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を向上させることができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

手段6の遊技機は、手段1～5のいずれかに記載の遊技機であって、

前記第1発光手段と前記第1拡散手段との距離は、前記第2発光手段と前記第2拡散手段との距離よりも長い（例えば、第1発光表示部851を構成するアンゲル型LED811から第1アウターレンズ807の背面に形成された光拡散部807Dまでの離間寸法L11（図21参照）は、第4発光表示部854を構成するアンゲル型LED745からアウターレンズ744の背面に形成された光拡散部744Dまでの離間寸法L12（図21、図25参照）よりも長寸とされている（ $L11 > L12$ ）。）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、点光りを防止することができる。